



キャットミュージックカレッジ専門学校 専門課程

2021 年度 学校関係者評価報告書

(基準日2022年3月31日)



学校法人 大阪創都学園

「職業実践専門課程」認定校

キャットミュージックカレッジ専門学校

学校関係者評価委員会 議事録

■開催日 2022年07月28日(木)

■開催時間 13:00～14:00

■開催場所 キャットミュージックカレッジ専門学校 学生会館 303

■出席者

三原淑治 エム・アイ・プランニング株式会社 代表取締役 ※委員長

高橋国明 株式会社 白竜社 取締役 第6期生 ※副委員長

瀧川紀征 株式会社リバフォール 代表取締役会長

東龍太郎 科学技術学園高等学校 通信課程大阪分室長

美根宏史 (学校長)

森正 (教務主任)

白藤浩史 (教務副主任)

城将敏 (学校法人大阪創都学園事務長)

○校長挨拶

■学校関係者評価委員の任期について

平素は本校の教育活動にご協力いただきまして誠にありがとうございます。

ご協力いただいている学校関係者評価委員には任期を定めるよう文科省より指示を受けており、令和4年3月末日をもちまして一旦任期満了となりました。引き続き更新というかたちで選任のご協力を賜りたくお願い申し上げます。なお、次の任期につきましては、同様にご協力いただいているグループ校である大阪アニメーションカレッジの委員任期が令和5年3月末日までとなっているタイミングに合わしておきたく、今回の任期は1年間とさせていただきたいと存じます。

○キャットミュージックカレッジ専門学校 2021年度自己評価における評価項目の達成及び取組状況

■進級率の向上

2年生の卒業率は良化しているものの、1年生の進級率は目安としている90%にわずかに届かない結果となっている。個別のケアが必要な学生の入学者が増えている傾向があり、より一層の個別の状況把握に注力していきたい。

■出席率と学生状況の把握

授業への出席率は昨年度対比でわずかに良化している。コロナ禍の中、学生もストレスが多いとは思いますが、各専攻の担当が工夫を凝らしている。しかしながら、進級生の進級率に繋がってはいない。今後も定期的な学生面談は基より、個別の学生の状態に気を配り、状況の把握に努めていきたい。

■就職率の向上

就職希望者に占める就職者の割合は、前年度に比べて各学科とも良化する結果となっている。新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、企業面談のオンライン化が進むなど就職活動の形は変わってきている。学生は戸惑いながらも懸命に努力する姿を見せており、職員スタッフはしっかりサポートを行い、一定の結果を出している。また、就職活動を継続しながら卒業した者には、卒業後も継続してサポートを行う。

○自己評価報告書実施概要についての説明

・昨年に関する自己評価報告書を精査、特筆すべき内容を説明

学校運営

2-11 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか

(自己評価3 → 4)

・個人情報などのコンプライアンスについては、教職員は定例の会議にて周知徹底し、学生についてもホームルーム、各授業を通して指導している。

・本校のディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーはホームページで公開され、業界や地域に広く公開されている。

教育活動

3-16 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか

(自己評価3 → 4)

・各企業との講師契約の流れもあり、現状の業界が理解しやすい教育体制を取っている。いろんな方々の現場の立場を理解した内容をカリキュラムに盛り込んでいく努力を行っている。

・教育課程編成委員会で委員からの答申を受け、専攻分会を定期的に行い、カリキュラムについては授業担当の講師と精査を行い年度ごとに編成を見直している。

3-25 関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか

(自己評価3 → 4)

・音楽/ダンス業界の企業と人材派遣契約を結び優れた教員を確保している。

・現状の契約企業や求人票からの PU を行い、現場サイドの仕事を請け負っている企業へのアプローチ等は行っている。提携先は、あくまでも開拓していく方針で進めているが、紹介、依頼なども検討しながら進めている。

2020年度にコロナ禍の影響を受け、教育環境は大きな変化があった。2021年度は徐々に状況は良くなったものの、一部のオンライン授業は継続、状況に合わせて感染防止対策を強化し実技実習の対面授業を中心とした授業を継続して教育機会の確保を行っている。

学習成果

4-32 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか

(自己評価3 → 4)

・全卒業生の活動把握は難しいが、在学中より学校や担任、講師とのつながりを深く持つことによって得られてくる情報により活動把握がしやすくなっている。卒業しても状況報告等が各担任や就職・キャリアセンターにあることも学校の大きな特徴だと思う。

・業界で活躍する卒業生たちとは良好な関係を築いており、そのネットワーク構築を拡げている。彼らからの協力を得てセミナーやクリニック、特別授業の場を設け、在校生への学びの場を提供している。

財務/法令等の遵守

・貸借対照表、事業活動収支計算書、資金収支計算書に沿って説明

社会貢献・地域貢献

10-58 地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか

(自己評価 3)

・行事等においての学校校内の公開は行っている。なお、先述した関連スクール「キャットエンタテインメントスクール」の活動等を通じて、地域等への講座の開設などに取り組んでいきたい。

11-61 学習成果が国内外で評価される取組を行っているか

(自己評価 3)

・学生作品をWEB サイト上に掲載する事で海外の方々からも高く評価いただいている。

11-62 学内での適切な体制が整備されているか

(自己評価 3)

・留学生専門の担当者を配置し、受け入れから卒業後のサポートまで支援を行っている。

○学科ごとの振り返り報告

総合学科

総合音楽

・指導方針をミュージシャン系に寄せていることもあり、ミュージシャン系の学生と交流の機会も増え、一緒に音楽活動を行う者が出ている。

<学校関係者評価委員会からの意見の活用状況>

ミュージシャン学科と同様

総合スタッフ専攻

・ほとんどが業界へ就職する事ができており、幅広く技術スタッフの分野を学んでいる特性が出ていると思う。イベントでの配信が増え、映像分野を学んでいることから映像スタッフとして活躍する機会が多く、たくさんの現場経験を積む事ができた。

<学校関係者評価委員会からの意見の活用状況>

音楽技術学科と同様

ミュージシャン学科

毎年行われるオーディションにおいて高評価を得たアーティストやバンドが、各メーカー／プロダクションとの話し合いを進めている状況を報告。

また、講師としての採用実績や、地域のイベントへの参加実績においても報告を行った。

<学校関係者評価委員会からの意見の活用状況>

意見：コロナ禍の状況の中、学生のバンド活動状況はどうなっているだろうか。可能な限り学校でサポートを行うべきだと思う。

活用状況：2021年度は12月に、バンド活動の活性化を目的に新たに学内ライブイベントを企画、実施する取り組みを行った。2022年度は7月にも新たな企画に取り組み、ライブイベントを行っている。今後も行事やイベント等へ向け、バンドの形成と演奏力の向上にサポートを行っていく。

意見：吹田市の姉妹都市と国際交流を行う事を考えてみてはどうか

活用状況：国際交流については機会があれば考えていきたい。まずは大阪の吹田という街に音楽学校があるという周知を広め、認知を上げていくことからスタートしたい。本校のカレッジ企画室では、地域への取組みとして吹田市等の音楽イベント制作の協力を行っている。そこでは、プロの演奏家にまじって卒業生を出演させてもらっている。こういった地域イベント等へ質のよい演奏や音楽作品を提供できるべく、ミュージシャンやクリエイターの育成に力を入れている。可能であれば在校生の出演や作品提供が行えるよう取り組んでいきたい。

ダンス学科

在校生を含むチームがダンスの全国大会にて優勝した実績の報告やダンススタジオ、テーマパークへの採用実績について報告を行った。

<学校関係者評価委員会からの意見の活用状況>

意見：クラスがチームとなる場合、技術だけではなく、コミュニケーションや関係性の理解が必要となる。クラスの中でトラブルがあった場合、担当の講師や職員が、情報共有をして対応していく必要がある。

活用状況：学生間の人間関係でトラブルが起きた場合に、複数の職員で面談を行い、講師へも共有することで多方面から指導やサポートをできるようにしている。

音楽技術学科

中止が相次いでいた野外音楽フェスイベントなどは徐々に再始動し、2021年度は5つの野外音楽フェスに技術系学生がスタッフとして参加することができた。

また、業界企業への就職実績についても報告を行った。

<学校関係者評価委員会からの意見の活用状況>

意見：地域イベントへの貢献、専門性に留まらず広い視野を持たせて欲しい。

活用状況：学外イベントなどで、学生でも請け負えるものがあれば、積極的に参加させていく。異業種情報、一般教養等を就職指導に絡めて指導している。

意見：吹田市の姉妹都市と国際交流を行う事を考えてみてはどうか

活用状況：国際交流については機会があれば考えていきたい。まずは大阪の吹田という街に音楽学校があるという周知を広め、認知を上げていくことからスタートしたい。以前より行っている高校軽音楽部関連のイベントに、会場提供と技術スタッフの協力を行っている。コロナの影響がある中、感染対策には細心の注意を払い、市外の高校生に学校を知ってもらい、また Hall 設備を経験してもらう機会であるので、可能なかぎり実施協力ができるよう取り組んでいる。また、これらのイベントは技術系スタッフ学生のよい研修の場としても活用している。

ギタークラフト専攻

意見：アートを扱う業界に関わる以上、学校と言えど一企業として一般へ向けた活動にも力を注ぎ、社会に貢献していくことも考えてほしい。

活用状況：三重県・尾鷲市や外部企業と協力し、SDGs に向けた取り組みに参加。ギタークラフト専攻 2 年生が中心となり、「国産木材を使用したギターの量産に向けての研究」のため国産檜・杉材を使用したギター製作を進めている。学生の技術向上と、国産木材や SDGs への理解を深める取り組みとなる。

○その他、意見交換

三原委員長：コロナ禍の状況で留学生の出入国の制限等あるのか

→ 出入国に伴う待機期間の日数が少なくなるなど、条件は徐々に緩和されてきている。今年度においても、ギター専攻、ドラム専攻、ミュージッククリエイター専攻に留学生の受け入れを行っている。

瀧川氏：留学生受け入れ に関して海外との提携先はあるのか

→ 特定の団体との提携は行っていない。入学の条件として日本語検定 N2 を取得している必要があるため、日本語学校から入学するケースが多い。

瀧川氏：江坂近辺でストリートミュージシャンを見なくなったが学生が学外で活動する機会が減っているのか

→ 江坂企業協議会のイベント等、地域の野外イベントにも参加しているが、以前と比べてストリートでのアーティスト活動は規制が厳しくなっているため、学生たちの発信方法もインターネットを使うなど変化してきている。

三原委員長: 行政も徐々に音楽フェスを立ち上げ始めているが、そういったイベントにも参加してはどうか
→すでに提案を受けている案件もあるが、学校行事、学外実習とのバランスを見ながら参加するかどうかの検討を行っている。

東氏: 自己表現の仕方が変わっている。自己最適化された指導がより必要とされているのではないか
→情報の伝達方法によってイベント等への参加率が大きく変わる傾向も見受けられている。担任と学生との直接的なコミュニケーションの重要性は高まっている。